２０１９年度　研究サマリー

研究会名称	CKD 啓発動画研究会（RAV-CKD）	
代表者所属	国際医療福祉大学病院	
代表者氏名	安藤康宏	印

研究方法・結果

1. RAV-CKD は動画を用いた効果的な CKD 啓発方法を探る目的で 9 年間の継続的活動を行い、公開動画 70 本以上・動画再生総回数 25 万回という数字を達成したことから、動画を用いた CKD 啓発において、ここ数年世界で最も活発にプロボノ※活動を行っている団体といえる。（※専門技能によるボランティア；ラテン語 pro bono publico の略）

2. 9 年の継続的活動を通じて CKD 啓発動画のノウハウを蓄積し、演奏家コミュニティーや飲食業界など、医療界の外に広がるトランスディシプリナリーな支援ネットワークを拡大してきており、費用対効果に優れた動画制作と多様なターゲットへのアプローチが可能となっている。

3. また日本国内限定のドメスティックな啓発だけではなく、海外へのアウトリーチ活動として、過去にドイツ語版、中国語版の動画制作～公開も行った。これもネット動画というボーダーレスツールの強みが生きる部分であり、今後もスペイン語、韓国語バージョンなどを検討しゆきたい。

4. CKD 認知度向上には、すでに医療や行政側で多数行われてきた「説明型啓発」よりも、マーケティング戦略に基づいた「注意喚起型啓発」の強化が優先かつ効果的であり、YouTube 動画はそのツールとして、また「説明型啓発」への橋渡し役としても有用である。

5. CKD という病名の一般認知率は 2018 年当会実施の第 3 回目のアンケート調査で 7.9%と 2012 年の第一回目の 4%から微増はしたものの、まだ極めて低くかつ伸び悩みの傾向にある。CKD 同様に新しい疾患名であるメタボリック症候群が広く認知されており、更により新しく提唱されたロコモティブ症候群やサルコペニアへの高齢者層の関心が高まっていることと極めて対照的であり、CKD 認知度向上には、動画に限定せず効果的な啓発手法を広く模索してゆくことが不可欠である。

研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）

栃木県臓器移植推進協会だより 30 号(2020 年 1 月）に活動報告概要を掲載